



秋田県・秋田市による文化施設の連携整備

事業の概要

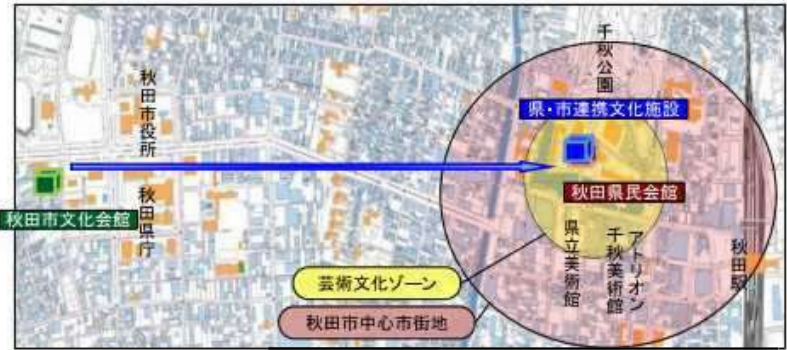
県と市が文化施設の整備に関する基本協定を締結し、老朽化により施設利用者のニーズに対応することが難しくなった秋田県民会館と秋田市文化会館の両施設の機能を集約した、県・市連携文化施設を整備

事業のポイント



県・市連携協定締結の経緯

- 平成25年度
知事と市長が、老朽化が進む両施設について、「県市連携による再編整備の検討」を表明(H25.4)
- 平成28年度
県・市連携文化施設の整備に関する基本協定締結(H29.1)



県・市連携協定締結 + 集約化

県・市連携協定締結のポイント

- ◎業務分担…施設を連携して整備するため、県・市双方の職員による推進体制を構築
- ◎負担のあり方…ホール面積割合を基本とし、県・市双方が負担



集約化

事業年度：平成29～令和4年度
県民会館と市文化会館を廃止し、新たに2つの機能を併せ持った施設を県と市が共同整備
(延床面積)
計：23,588㎡ → 22,653㎡
(県：9,304㎡)
(市：14,284㎡) ※約4%減少

事業の効果

- 県と市の共同整備により、それぞれ単独の立替えよりも整備費と運営管理コストを縮減
- 秋田市中心部という立地を生かした日常的に人が集い交流できる施設となり、まちの賑わいを創出
- ホールの一体的・広範な利用により、これまでは実施することができなかった規模・種類の公演が可能となるなど、発表・鑑賞の機会が充実